

カンボジア通信

〒464-8610 名古屋市千種区今池 2-1-10

河合塾社会貢献事務局 経営企画部内 河合塾カンボジア教育支援グループ [編集]西川洋平(教育研究部)



河合塾のカンボジア募金で、今年はカンボジア-日本友好学園の生徒3名と先生を招聘しました。来日したのは、左の写真、左からダネイ君(18歳)、チャン・ドーン君(20歳)、ソリヤさん(16歳)。右の写真は化学のワンナー先生。8/24~9/2の10日間、名古屋と京都・大阪の2地区を訪問しました。今回はその一部と5月に現地を訪れたスタッフの滞在日記を中心にお届けします。



8月25日(土) カンボジアの先輩たちと交流 ~名古屋大学訪問~

来日の翌日に訪問した名古屋大学では、7人のカンボジアの先輩たちが出迎えてくれました。同郷の先輩たちに会えたことで、来日したばかりで少し緊張気味だった3人からやっと笑顔がでてきました(*^_^*) 集まってくれた留学生たちは大学院生、社会人といういるので、クメール語で語り合った交流会はとても賑やかでした(先輩が私に時折、流暢な日本語で通訳もしてくれました!)

先輩たちは、日本に来て感じたこと、楽しかったこと、辛かったこと、習慣の違いなどで戸惑ったこと、国の歴史、文化を理解し合い学ぶ合うことの大切さなど熱く、楽しくいろいろな体験を語ってくれました。「夢を実現するためには努力し続けることが大切だよ!」と激励された3人には、たくさんの困難の中、一步一步夢を実現している先輩たちがとても頼もしくみえたことでしょう。3人も近い将来、必ずこの先輩たちのように自分たちの望む道を逞しく切り拓いていってくれと信じています。(福岡校/中島)

8月26日(日) 初めてのバーベキュー&ハイキング

犬山・八層にバーベキューとハイキングに出かけました。草木を興味深そうに覗き込んだり、澄んだ水の中に手を入れたり、カンボジアでは見慣れない日本の自然に夢中!一緒に食べながら日本の文化を紹介することは、私たちにも勉強になりました。楽しそうに笑っているかと思えば一生懸命、メモ帳に書き込んでいる様子に「この機会を大切にしてほしい、家族や友達に伝えてほしい」と感じました。(TSS/山田)

【会計報告】

2006年度 年間募金収入	923,023 円
生徒招聘(教員・通訳の渡航費、滞在費含む)	-743,656 円
カンパ協力金(河合塾教職員より)	144,024 円
生徒招聘残金	計 323,391 円
前期(07.4-9)募金額	226,940 円
募金残額計	合計 550,331 円

8月27日(月) 日本の伝統文化 - 「茶道・書道」を学ぶ

日本の伝統的文化を体験しよう、ということで書道・茶道の実習を行いました。自分たちでもお茶をたててみましたが、一度見ただけで流れをつかむ習得の速さにもびっくり。またカンボジアの女性は一般に手の動きがとても優雅ですがソリヤも同様で、茶せんを回す美しい手つきは周囲の賞賛をあげていました。書道体験では、それぞれ「幸福」「希望」「未来」の文字を選び、一心に練習を重ねて書きあげ満足気な様子。「カンボジアが身近になった」「是非一度行ってみたい」と口々に話す書道・茶道の先生方の言葉からも、この生徒招聘はカンボジア生徒のみならず、招く日本側にとっても貴重な経験であることを実感させられました。(名古屋ドルトン/伊藤)



8月28日(火) そうだ、京都へ行こう!



関西訪問の初日は京都観光!まずは金色にきらきら光っている金閣寺を見て「すごくきれい」とみんな感動していました。それから京都御所を抜けて京都大学で昼食タイム。日本の大学の雰囲気も味わえたかな?それから清水寺~錦市場~京都駅まで歩きまわって、「日本の夏」を満喫しました。

翌日、京都とは異なる趣の大阪では、通天閣から市街を一望し、たくさんの高層ビルに驚いた様子。午後からは大阪校で生徒交流会を行い、20名の塾生が参加。世界史の金先生からカンボジアの歴史についてのお話があった後、「カンボジアの様子」や「将来の夢」などについて生徒たちがスピーチ。そのあともカンボジアの写真を見たり、カンボジア語の勉強をしたり...

交流会が終わった後も楽しく話は続いていました。塾生は「大学生になったらカンボジアに行きたい」、カンボジアの生徒たちは「大阪に友達がたくさんきたから、また日本に来たい」と話してくれるなど、とても充実した交流会となりました。(近畿地区教務部/福永)





カンボジアから化学の先生がやってきた

カンボジアの「先生」にも日本を知ってもらい「現地の生徒たちに日本を伝えて欲しい」また「教授法やスキルを学んでもらい、現地の教育発展に役立てて欲しい」との期待を込めて化学のワンナー先生をお招きしました。先生は将来、カンボジアの子供たちにより高いレベルの教育を提供したいと考えており、学費の準備ができれば、平日は友好学園で教えながら週末は大学院に通う夢を持っています。自分の夢をカンボジアの未来になぞらえる心意気に「カンボジアの未来は大丈夫だ！」と確信しました。今回は化学の照井先生と数学の露木先生にご協力をいただきながらの12日間でしたが、先生からのレクチャーはもちろん、科学博物館や大学の研究室訪問まで全てが刺激的だった様子！（教育研究部 / 西川）

スタッフの「カンボジア」滞在日記♪

カンボジアの予備校！？

カンボジアでは高校卒業試験の成績によって進学できる大学が決まります。河合塾が支援するカンボジア日本友好学園の生徒の卒業試験合格率アップの秘訣を探るために、今回はカンボジア最大の予備校「チェイタビー・スクール」取材しました！プノンペンの高校生たちは高校が終わった後にこの学校に通っているのですが、ここでは、授業を受ける直前に先生に1コマ分の授業料を払うシステム、また公立の高校では2時間かけて教えるカリキュラムを、独自のプリントを使いながら6時間かけて教えるなど、生徒の集中力を切らせない工夫と丁寧な指導が行われていました。1クラス40～200人と大人数の授業ですが、それでも評判を聞いてカンボジア中から生徒が集まってきました。

友好学園はプレイベン州という田舎にあるため、こんな立派な予備校はありませんが、河合塾もこれに負けないサポートができれば！と新しい支援体制について模索しています。

（教育研究部 / 西川）



所変われば筆記用具も変わります！

日本の学校で生徒が使う筆記用具と言えばシャープペンシル。芯を入れ替えれば何度も使えますし、コストパフォーマンスも抜群。元は、鉛筆ですから消しゴムで消すこともできます。

さて、カンボジアでは...といいますが、ボールペンが主役です。それも「青色」。値段が高い上に、使い切りの筆記用具がなぜ主役なのか？それは、彼らの環境と歴史にあるようです。

環境面では、まず机と紙の質です。机の表面が日本の学校の机のようにキレイなフラットとは限らず、歪んでいたりと、木目の溝がそのままあったりすることが殆ど。また、紙の質も良いとは言えず、ざらざらです。

もう一つは、公的な書類に「青インクが使われている」ということ。これは、フランス植民地時代からの事と考えられ、万年筆のブルーブラック 青のボールペンと思われます。

もし、皆さんの手元に「青のボールペン」が余っていませんか、是非寄贈下さい。

（メディア教材開発部 / 東平）



卒業生の下宿訪問 貧しいながらも希望に満ちた大学生

今年の8月にプノンペンで生活している友好学園の卒業生の家に行ってきました。大学生は5～6人で家を借りて共同生活をしており、今にも壊れそうな扇風機を「電気代が高いからあまり使わないんだ」といいながら、スイッチを入れてくれます。やはり都会に出てきた学生には物価が高く、厳しい生活を強いられているようです。この家で生活するS君はプノンペンの名門 ビル・ブライト大学で英語を勉強していますが、日本語の会話もなかなかのものです！そのS君にも最近、彼女ができた様子！彼女は繊維工場に働く女工さんで、朝から晩まで働いているので週末しか会えないのですが、彼らと話していると、こちらが幸せを分けてもらっているようです。今、「卒業生のために4年間建物を借りて、寮として使ってもらおう」という計画が河合塾関係者の有志が中心になって、進行中です。月5万円ほどで、学生が15人くらい住める家が1軒借りられるそうです。支援に興味のある方は、河合塾カンボジア支援グループまでご連絡下さい。（東日本地区数学科講師 露木繁）

